

地域県土警察常任委員会資料

(令和7年8月21日)

[件 名]

- 令和7年度普通交付税（市町村分）の交付額について
【市町村課】・・・2ページ
- 「鳥取県ちいわか総選挙」の実施について
【市町村課】・・・4ページ
- 世界陸上ジャマイカ代表選手団事前キャンプ等について
【スポーツ課】・・・5ページ
- 「東京2025デフリンピック」の機運醸成等について
【スポーツ課】・・・6ページ
- 文化財の県指定等について
【文化財課】・・・8ページ
- 日本遺産の継続認定等について
【とっとり弥生の王国推進課】・・・14ページ
- 青谷弥生人女性復顔像の名前選考状況について
【とっとり弥生の王国推進課】・・・15ページ

地域社会振興部

令和7年度普通交付税（市町村分）の交付額について

令和7年8月21日
市 町 村 課

7月29日、総務大臣により令和7年度普通交付税の交付額が決定されました。本県における市町村分の交付額等の概要は以下のとおりです。

1 令和7年度普通交付税（市町村分）の交付額の概要

普通交付税の算定において、臨時財政対策債を含めた実質的な普通交付税は908.5億円となり、前年度（当初算定分）に対して+10.8億円となった。前年度（当初算定分）との比較においては全国値+0.2%に対して本県は+1.2%となった。

<本県の決定額>

(単位：千円、%)

区分	普通交付税額				普通交付税額+臨時財政対策債(※)発行可能額			
	令和7年度 A	令和6年度 B	増減額 C(=A-B)	増減率 D(=C/B)	令和7年度 E	令和6年度 F	増減額 G(=E-F)	増減率 H(=G/F)
市	43,225,816	42,314,104	911,712	2.2%	43,225,816	42,992,229	233,587	0.5%
町村	47,619,386	46,635,728	983,658	2.1%	47,619,386	46,777,385	842,001	1.8%
市町村分計	90,845,202	88,949,832	1,895,370	2.1%	90,845,202	89,769,614	1,075,588	1.2%
(参考)県分	142,762,817	141,480,361	1,282,456	0.9%	142,762,817	141,967,300	795,517	0.6%

※臨時財政対策債：地方一般財源の不足に対処するための特例地方債（後年度の普通交付税で全額措置予定）

※令和6年度の数値は当初算定分であり、再算定分は含まない。

2 本県市町村分の主な増減理由

(1) 主な増減理由

○基準財政需要額（臨時財政対策債振替前）1,604.5億円（+28.1億円）（+1.8%）

[増加要因]

- ・地域振興費（人口）のガバクラに係る補正係数創設による増 +8.2億円
- ・包括算定経費の単位費用（給与改善費、公共施設の光熱費、委託料経費）の増 +11.6億円

○基準財政収入額 695.2億円（+17.5億円）（+2.6%）

[増減要因]

- ・市町村民税所得割の増 +22.3億円
- ・地方消費税交付金の増 +6.1億円
- ・固定資産税の増 +3.8億円

(2) 増減率の大きい団体 ※臨時財政対策債発行可能額を加えたもので前年度と比較

- 日南町 +8.2%：中学校費（生徒数）の増、小学校費（児童数）の増、公債費（過疎対策債）の増 等
- 日吉津村 +4.4%：地域振興費（人口）の増、包括算定経費（人口）の増、こども子育て費の増 等
- 岩美町 +3.3%：地域振興費（人口）の増、包括算定経費（人口）の増、こども子育て費の増 等

【参考】県分の交付額の概要

普通交付税の算定において、臨時財政対策債を含めた実質的な普通交付税は1,427.6億円となり、前年度（当初算定）に対して+8.0億円となった。

<県分の主な増減理由>

○基準財政需要額の増 +24.7億円

個別算定経費の増（+35.5億円）、包括算定経費の増（+10.1億円）、公債費の減（△22.0億円）等

○基準財政収入額の増 +17.1億円

個人県民税（所得割・均等割）の増（+16.7億円）、特別法人事業譲与税の増（+7.9億円）、法人事業税の増（+5.5億円）等

【市町村別普通交付税額】

区分	普通交付税決定額				普通交付税決定額＋臨時財政対策債発行可能額				(参考)
	令和7年度 A	令和6年度 B	増減額 C(=A-B)	増減率 D(=C/B)	令和7年度 E	令和6年度 F	増減額 G(=E-F)	増減率 H(=G/F)	令和7年度 臨時財政 対策債発 行可能額
県分	142,762,817	141,480,361	1,282,456	0.9%	142,762,817	141,967,300	795,517	0.6%	0

鳥取市	22,777,853	22,440,072	337,781	1.5%	22,777,853	22,898,675	△ 120,822	△0.5%	0
米子市	9,954,395	9,585,524	368,871	3.8%	9,954,395	9,732,133	222,262	2.3%	0
倉吉市	7,261,754	7,123,964	137,790	1.9%	7,261,754	7,166,285	95,469	1.3%	0
境港市	3,231,814	3,164,544	67,270	2.1%	3,231,814	3,195,136	36,678	1.1%	0
岩美町	3,388,132	3,271,030	117,102	3.6%	3,388,132	3,281,222	106,910	3.3%	0
若桜町	2,011,852	1,964,230	47,622	2.4%	2,011,852	1,968,184	43,668	2.2%	0
智頭町	3,139,798	3,195,874	△ 56,076	△1.8%	3,139,798	3,203,478	△ 63,680	△2.0%	0
八頭町	5,112,602	4,974,016	138,586	2.8%	5,112,602	4,987,867	124,735	2.5%	0
三朝町	2,376,941	2,329,901	47,040	2.0%	2,376,941	2,336,112	40,829	1.7%	0
湯梨浜町	4,391,457	4,348,345	43,112	1.0%	4,391,457	4,362,385	29,072	0.7%	0
琴浦町	4,465,199	4,351,110	114,089	2.6%	4,465,199	4,366,134	99,065	2.3%	0
北栄町	3,580,721	3,565,251	15,470	0.4%	3,580,721	3,577,562	3,159	0.1%	0
日吉津村	824,627	783,390	41,237	5.3%	824,627	790,243	34,384	4.4%	0
大山町	4,770,611	4,619,278	151,333	3.3%	4,770,611	4,633,670	136,941	3.0%	0
南部町	3,287,401	3,261,127	26,274	0.8%	3,287,401	3,270,875	16,526	0.5%	0
伯耆町	3,552,067	3,513,310	38,757	1.1%	3,552,067	3,524,694	27,373	0.8%	0
日南町	3,264,955	3,011,472	253,483	8.4%	3,264,955	3,018,085	246,870	8.2%	0
日野町	1,918,896	1,932,779	△ 13,883	△0.7%	1,918,896	1,937,140	△ 18,244	△0.9%	0
江府町	1,534,127	1,514,615	19,512	1.3%	1,534,127	1,519,734	14,393	0.9%	0
都市計	43,225,816	42,314,104	911,712	2.2%	43,225,816	42,992,229	233,587	0.5%	0
町村計	47,619,386	46,635,728	983,658	2.1%	47,619,386	46,777,385	842,001	1.8%	0
県計	90,845,202	88,949,832	1,895,370	2.1%	90,845,202	89,769,614	1,075,588	1.2%	0

全国の決定額

(単位: 億円)

区分	普通交付税決定額				普通交付税決定額＋臨時財政対策債発行可能額				(参考)
	令和7年度 A	令和6年度 B	増減額 C(=A-B)	増減率 D(=C/B)	令和7年度 E	令和6年度 F	増減額 G(=E-F)	増減率 H(=G/F)	令和7年度 臨時財政 対策債発 行可能額
道府県分	92,722	92,325	397	0.4%	92,722	94,725	△ 2,003	△2.1%	0
市町村分	85,475	83,145	2,330	2.8%	85,475	85,290	185	0.2%	0
計	178,198	175,470	2,728	1.6%	178,198	180,015	△ 1,817	△1.0%	0

*表示単位未満四捨五入しているため、項目ごとの数値と合計は一致しない。

「鳥取県ちいわか総選挙」の実施について

令和7年8月21日
市 町 村 課

小・中学校の年代における児童生徒の民主主義の重要性への理解及び将来の政治参加を促進するため、今年度からの新たな取組として、小学校6年生、中学校3年生の児童生徒を対象とし、鳥取県に関わることをテーマとしたオンライン投票を全県的に実施しますので、その概要を報告します。

1 目的

ちいわか総選挙は、身近な地域課題等について考え、実際に一票を投じ、その結果が施策等に反映されるという体験を通じ、若者の政治的有効性感覚(自分の行動や意見が政治に影響を与えられるという実感・感覚)を養い、積極的に投票参加・政治参加する主権者としての成長につながる実践的な学びの機会を設ける。

※令和7年参院選では、県内全世代の投票率が55.04%であったところ、18・19歳の投票率が40%(推定値)となるなど、若い世代の投票率が低い傾向にある(全国的な傾向)。

※令和5年度に県民の政治参加を促進するために開催した「投票率低下防止等に向けた政治参画のあり方研究会」での検討結果を踏まえ、より若い世代から連続性を持った主権者教育プログラムを設け、全県下で体系立てて主権者教育を推進するため、令和6年度中に主権者教育プログラム「ちいわか総選挙」を開発した。

2 対象児童生徒

○小学校・義務教育学校・特別支援学校小学部6年生

○中学校・特別支援学校中学部3年生、義務教育学校9年生

※参加については各学校の判断となるが、昨年度に県教育委員会事務局及び市町村課で各市町村教育委員会事務局、私立・国立学校、校長会、教育研究会(社会科部会)を訪問して趣旨や方法等について説明を行っている。

3 投票期間

小6：9月1日(月)～9月30日(火)

中3：9月1日(月)～11月28日(金)

4 実施方法及び投票方法

- (1) 県内の小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校に教材「投票所入場券リーフレット」を配布した。
 - ・教材(投票所入場券リーフレット)には、知事からのメッセージや選挙の意義・制度説明に関する動画やテキストへのリンクが貼り付けられており、児童生徒のタブレットで楽しく学べるよう工夫している。(別添のとおり)
- (2) 各学校において、教材を活用し、授業・オンライン投票を行う。
 - ・児童生徒は、投票テーマとなる地域課題や県施策をまとめた教材「ちいわか総選挙公報」で地域課題等について事前に学習する。
 - ・児童生徒のタブレット端末を利用し、google フォームで投票する。
- (3) 投票結果を公表し、実際に鳥取県の施策等に反映する。

5 投票テーマ

- (1) 小学校6年生
「3人目『青谷弥生人』の名前」
 - ・青谷上寺地遺跡から出土した人骨をもとに復元した青谷弥生人3人目女性復顔像の名前を決めてもらう。
 - ・4月17日～6月30日の期間に公募をして集まった応募作品(応募総数1,802件)の中から、7月の審査委員会において、4つの候補を選定し、その4つの名前候補について、「ちいわか総選挙」で投票し、最も得票数の多かった作品を3人目女性復顔像の名前に決定する。
- (2) 中学校3年生
「若者が求める鳥取県立美術館の『オープンネス』の取組」
 - ・県立美術館が掲げるキーコンセプト「オープンネス」を推進するに当たり、若者が期待することについて投票してもらう。
 - ※オープンネス…開放性や寛容性などを表現するとともに、“誰に対しても開かれ、多様性を受け入れる”をコンセプトに、県立美術館が目指す姿を表すブランディングワード。
 - ※今後特に重点的に力を入れるものについて若者の意見を取り入れる趣旨であり、選択されなかった取組も必要に応じて進める。

世界陸上ジャマイカ代表選手団事前キャンプ等について

令和7年8月21日
スポーツ課

「東京2025世界陸上(9/13-21)」に出場するジャマイカ代表選手団の事前キャンプの受入スケジュール及びジャマイカからのスポーツ国際交流員(SEA※)の着任について報告します。

※SEA:JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)の一環として、地方公共団体に派遣される外国人で、スポーツ分野における国際交流を推進する役割を担う。

1 東京2025世界陸上ジャマイカ代表選手団事前キャンプ概要

(1) 日程 9月1日(月)から同月11日(木)

※マネジメントチーム4名は8/28から来県(現地の最終確認等)

(2) 選手団 最大86名 ※8/20時点

(内訳)選手57名(女性28名、男性29名)、役員・コーチ等29名

(3) 会場 ヤマトスポーツパーク陸上競技場

(4) スケジュール(予定)

期間中、保育園訪問等による交流、公開練習やサイン会、ジャマイカの文化・食に触れるイベント等を開催。

9/1(月) 来県(成田/羽田空港→鳥取空港着→ホテル)
9/2~4日(木) 練習(午前5:00~10:00頃、午後16:00~19:00頃) ※練習時間は連日同じ
9/5(金) 練習(午前~午後)、千代保育園・白兎養護学校訪問
9/6(土) 公開練習(8:00~10:00)、サイン会(10:00~11:00)、アスリートクリニック(15:45~16:30)、記録会(17:30~)

※アスリートクリニック:小中学生を対象に、ジャマイカ選手団のコーチが、競技前に代表選手が行うウォーミングアップやトレーニング方法を指導
※記録会:100m(小1~小3は50m)のタイムを計測。

9/7(日) 公開練習(8:00~10:00)、サイン会(10:00~11:00)、ジャマイカフェス(11:00~16:00)

※ジャマイカフェス:県民の方にジャマイカ文化等を感じていただくよう、公開練習に合わせて、ジャマイカ発祥の「レゲエ音楽」、岩美高校による吹奏楽、鳥取城北高校によるダンスなどのステージイベントや「食」を楽しめるブースを出版

9/8~9日(火) 練習(午前~午後)

9/10(水) 練習(午前)、記者会見(とりぎん文化会館)

9/11(木) 世界陸上へ(鳥取空港→羽田空港着)



(5) 機運醸成

- 8月4日より鳥取砂丘コナン空港、ヤマトスポーツパーク、鳥取駅前に歓迎のぼりを設置。
- のぼりは、鳥取市内の養護学校等(白兎養護学校、鳥取聾学校、鳥取盲学校、鳥大附属養護学校)の生徒とプロのクリエイターが協力して作品を作る「バディアート(※)プロジェクト」により制作。
- ※バディアートプロジェクト:障がいのある方とプロのクリエイターがバディ(相棒)となり、障がいのある方の独自の感性や視点、想像力と、クリエイターの経験や独創的なアイデアを活かして、一つの作品を作り上げる取組。

【東京2025世界陸上選手権大会(東京2025世界陸上)概要】

期間:9月13日(土)~9月21日(日)

会場:東京 国立競技場ほか

主催:ワールドアスレティックス(陸上競技の国際競技連盟)

主管:(公財)日本陸上競技連盟

大会規模:(参加選手・役員数)約2,000人/(参加国・地域数)約200/(種目数)49種目

2 クリスティン・ジョージアナ・デイ(出身:ジャマイカ)スポーツ国際交流員(SEA)の着任

(1) 着任日 令和7年8月4日(任期:1年間)

(2) 経歴(国際大会の成績)

- ジャマイカ代表選手として、鳥取県で事前キャンプを行った世界陸上選手権北京大会(2015)では、4×400mリレーで金メダルを獲得。
- ロンドンオリンピック(2012)、リオオリンピック(2016)の4×400mリレーで各々銀メダルを獲得。

年	大会	開催国	順位	競技
2012	ロンドンオリンピック	イギリス	2位	4×400mリレー
2015	世界陸上競技選手権大会 ※前回(2015)事前キャンプで来県	中国(北京)	1位	4×400mリレー
2016	リオオリンピック	ブラジル	2位	4×400mリレー



(3) 今後の活動

- 東京2025世界陸上の事前キャンプでは、選手団のサポートやメンタル面のフォローのため選手団に帯同。
- 世界陸上終了後は、布勢陸上競技場等で開催するスポーツ教室での指導、高校部活動及び鳥取陸上競技協会との連携による県内各地での指導などを予定。

「東京 2025 デフリンピック」の機運醸成等について

令和7年8月21日
スポーツ課

「東京 2025 デフリンピック」(11/15~26)の機運醸成イベントとともに、本県ゆかりの日本代表選手について、概要を報告します。

1 機運醸成イベント

(1) 東京 2025 デフリンピック全国キャラバン in とっとり

■概要:

8月20日(水)~25日(月)にかけて「東京 2025 デフリンピック応援キャラバンカー」が、県内19市町村及び鳥取県庁や鳥取聾学校を巡回する。(鳥取県聴覚障害者協会 下垣彰則理事長他)

※全国キャラバンの概要

- ・全国ろうあ連盟関係者がキャラバンカーで47都道府県や市町村を巡回訪問。
- ・各地で啓発イベントや開会式で上映するための動画等を制作。
- ・キャラバン隊の出発式は、全国ろうあ者大会(6/15)にあわせて岩手県盛岡市で実施。
- ・期間:令和7年6月15日~11月14日(全国巡回)

東日本班(岩手県出発)、西日本班(大分県出発)の2班体制

<各市町村巡回時に行う内容>

- ・東京 2025 デフリンピック PR
- ・東京 2025 デフリンピック応援キャラバンカー紹介
- ・各首長による寄せ書き など

■県内巡回日程(県内全市町村)

- 20日 広島県⇒日南町~日野町~江府町~伯耆町~南部町
- 21日 米子市~境港市~日吉津村~大山町~琴浦町~北栄町
- 22日 三朝町~倉吉市~湯梨浜町~鳥取県庁~鳥取市
- 23日 鳥取駅前バード・ハットでデフリンピックイベント開催
- 25日 岩美町~鳥取聾学校~八頭町~若桜町~智頭町 ⇒岡山県



(2) デフスポーツ&デフリンピックイベント in とっとり

■概要:

デフリンピックやデフスポーツの魅力などを発信するとともに、きこえない人、きこえにくい人の社会参加への理解や手話言語の普及など、共生社会の実現を目指す。

- 1 日時:令和7年8月23日(土)10時~14時
- 2 場所等:バード・ハット(鳥取市今町2丁目) 主催:鳥取県聴覚障害者協会
- 3 内容:

○トークショー

デフリンピック開催100周年の記念すべき大会で、日本で初めて開催される大会。鳥取県出身選手も登壇し、大会に向けての意気込み、また大会に期待することなどを語っていただく。

[登壇者]

- ・平井 伸治 鳥取県知事
- ・北澤 豪 氏 ※東京 2025 デフリンピックサッカー競技スペシャルサポーター
元サッカー日本代表、(一社)日本障がい者サッカー連盟会長
- ・鳥取県出身デフリンピック日本代表3選手(前島博之選手、中村洋三選手、小林優太選手)

○リフティングに挑戦!

来場者と北澤氏がリフティング対決などを行う。

○「デフリンピックを知ろう!」上映

デフリンピックを紹介する動画を上映する。

○体験コーナー等

音のない世界を体験するVR体験やデフスポーツを体験するコーナーを設けるとともに、来場者への手話言語講座を開催する。キッチンカーや福祉作業所も出店する。



2 日本代表として出場する本県ゆかりの選手

本県ゆかりの4名の選手が、東京2025デフリンピックの日本選手団員として選出された。

※全日本ろうあ連盟デフリンピック派遣委員会が、東京2025デフリンピックの日本代表選手団員391名（選手273名、監督・コーチ等118名）を正式に決定。

<出場選手のこれまでの主な成績>

前島 博之 選手（37歳。鳥取市出身[鳥取市在住]。ゴルフ）

出場種目 個人戦／混合団体戦
主な成績 2024 日本デフゴルフ選手権大会 優勝
2024 世界デフゴルフ選手権大会 個人6位・団体3位
2023 日本デフゴルフ選手権大会 男子一般2位



中村 洋三 選手（43歳。鳥取市出身[大阪府在住]。ボウリング）

出場種目 シングルス／ダブルス／団体戦
主な成績 2023 世界ろう者ボウリング選手権大会 男子トリオ種目6位
2022 第31回西日本ろうあボウリング選手権大会 男子個人5位



小林 優太 選手（24歳。米子市出身[東京都在住]。ハンドボール）

出場種目 団体戦
主な成績 米子北高校時代に競技を始める。
今大会が開催されるにあたって、大学時代にサークルを立ち上げる。
日本チームとして、初めてのデフリンピック出場。



佐々木 昂 選手（21歳。伯耆町出身[広島市在住]。陸上競技）

出場種目 5000m／10000m
主な成績 2025 第22回日本デフ陸上競技選手権大会 5000m 2位、10000m 3位
2024 第21回日本デフ陸上競技選手権大会 5000m、10000mで優勝



【参考】

<今後のスケジュール>

- ・11月上旬（予定） 韓国柔道代表選手団キャンプ（米子市内）
- ・11月15日～26日 東京2025デフリンピック本大会（東京）

<東京2025デフリンピック概要>

- ・大会名：第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025
- ・大会期間：令和7年11月15日～26日（12日間）
- ・競技種目：21競技（ゴルフ、ハンドボール、陸上競技、ボウリング、サッカーなど）
- ・開催地：東京都・福島県（サッカー）・静岡県（自転車）
- ・参加国：70～80か国・地域・参加者数：約6,000人（選手約3,000人、スタッフ約3,000人）

文化財の県指定等について

令和7年8月21日
文化財課

令和7年8月19日(火)、鳥取県文化財保護審議会(会長：靄理恵子 専修大学教授)は、下記の文化財について、鳥取県保護文化財に指定すること、鳥取県無形文化財保持者に追加認定すること、鳥取県史跡に指定することを知事に答申しました。

記

文化財の名称	鷹図額 (たかずがく)		
文化財の分野	鳥取県保護文化財(絵画)		
所在地	鳥取市	員数	4面
文化財の概要	慶安3年(1650)、鳥取藩主池田光仲による鳥取東照宮創建に合わせて奉納された、扁額2面である。奉納者は鳥取藩で次席家老を務めた倉吉荒尾家初代の荒尾嵩(崇)就(たかなり)(1592~1669)、作者は江戸を拠点に幕府御用絵師を統率した狩野探幽(かのうたんゆう)(1602~1674)である。鳥取東照宮の社殿とその奉納絵画は、藩政初期における最高水準の建築と美術工芸品を鳥取城下で一体的に今に伝える無二の存在であり、本作はすでに県保護文化財に指定されている鳥取東照宮所蔵「三十六歌仙図額」と共にその不可欠な構成要素である。		

文化財の名称	木造聖観音菩薩坐像 (もくぞうしょうかんのんぼさつざう)		
文化財の分野	鳥取県保護文化財(彫刻)		
所在地	八頭町	員数	1軀
文化財の概要	成田山青龍寺の収蔵庫に、持国天像・多聞天像(どちらも重要文化財)を左右に配して安置される等身の菩薩坐像。聖観音と伝えられている。本像は、後補された玉眼や漆箔に加え、損傷が進んでいるため、像容を損ねていることが惜まれるが、目尻の切れ上がったまなざしや面長な顔立ち、腰高で抑揚があり量感豊かな体軀の表現、胸を張り上半身を起こした姿勢などに、鎌倉時代前期(1230年代から1240年代)の造形的な特徴を看取することができる。本県には13世紀前半の優品が少なく、本像の存在は空白期である当該地域の歴史を物語る作品として高い価値を有する。		

文化財の名称	陶芸 (とうげい)		
保持者	小林 孝男 (こばやし たかお)		
文化財の分野	鳥取県無形文化財(工芸技術)		
所在地	鳥取市		
文化財の概要	牛ノ戸焼五代目・小林栄一のもとで新作民藝を代表する牛ノ戸焼の伝統的な技術と作風を学んだ。地元の素材にこだわった土作りや釉薬作りに基づく作品の質感、緑と黒の染め分けに代表される色調の表現方法を深く体得しているだけでなく、伝統を自分なりに汲み取って施釉や施文などに改良を加えながら現代の生活に合う作品を制作しており、作陶に卓越した技能を発揮していることが高く評価される。		

文化財の名称	古郡家古墳群 (ここおげこふんぐん)		
文化財の分野	鳥取県史跡		
所在地	鳥取市		
答申の概要	古郡家1号墳は、古墳時代前期末に築造された前方後円墳で、これまでに判明するところでは、鳥取平野で初めて葺石や円筒埴輪列などの要素を備えた古墳である。出土遺物は、前期から中期への時代の転換点において、近畿地方や丹後地方の有力者との関係を取り結びながら、因幡地方の有力者が台頭したことを物語る資料として県保護文化財に指定されている。また、1号墳を取り巻く中小規模の円墳群13基は、県内の円墳としては中型からやや大型の部類に入り、墳丘の保存状態が比較的良好で、1号墳の性格を解明する上でも古墳群の形成過程を考える上でも貴重である。		

【文化財の詳細】

名称	所在地	員数	指定基準
鷹図額 <small>たかずがく</small>	鳥取市（鳥取県立博物館）	2面	保護文化財 絵画、彫刻の部 1 各時代の遺品のうち製作優秀で我が県の文化史上貴重なもの 2 我が県の絵画・彫刻史上特に意義のある資料となるもの

＜指定理由＞

慶安3年（1650）に鳥取藩主池田光仲いけだみつなかによる鳥取東照宮創建に合わせて奉納された、扁額へんがく2面である。奉納者は鳥取藩で次席家老を務めた倉吉荒尾家初代、荒尾嵩たか（崇）就なり（1592～1669）で、作者は江戸を拠点に幕府御用絵師ごようえしを統率した狩野探幽かのうたんゆう（1602～1674）である。同年、藩主光仲は同じく探幽に「三十六歌仙図額」（平成10年指定鳥取県保護文化財：三十六歌仙額）を制作させ、京都で青蓮院尊純法親王しょうれんいんそんじゅんほっしんのう（1591～1653）による色紙形の染筆しきしがたを得た上で、鳥取東照宮に奉納した。嵩就による本作の奉納は、これに追従したものである。歌仙図が和歌を通じて神仏を慰撫する文芸的な画題であるのに対し、鷹図はより勇ましく、尚武の気風をうたう。両者は主題において対照をなしており、藩主と家老というそれぞれの依頼主の主従関係と合わせて、東照宮造営における藩主と家臣団の協働性を端的に示している。

鷹図は左右2面とも板に紙貼り付け仕立てとし、地に金箔を捺して、左手から張り出した樹枝上に止まる白鷹をそれぞれ下向き、横向きの狩野派の定型図像で描き表す。2面ともに落款「探幽齋筆」および朱文瓢形印「守信」が認められるが、表面の虫害が著しく、款印の大部分が損なわれている。画風は歌仙図の緻密さに比して筆致が粗く、描き込みの密度はさほど高くない。色材や墨の濃淡の付け方、暈しの多用の仕方には探幽風が表れているが、現存する探幽画の中では工房的な量産品と思われ、意識的なものか、藩主家の奉納品とは差がある。

本作は、鳥取県域に伝世する近世初期の狩野派による公用画として、鳥取東照宮所蔵の「三十六歌仙図額」などと並んで希少な遺品である。藩主が奉納した歌仙図に比べて出来はやや荒く、保存状態にも難があるが、主題、奉納者、作者、作域といった様々な点で補完的な位置を占めており、不離の関係にある。鳥取東照宮の社殿とその奉納絵画は、藩政初期における最高水準の建築と美術工芸品を鳥取城下で一体的に今に伝える無二の存在であり、本作は歌仙図と共にその不可欠な構成要素である。



左面
（墨書）奉掛鷹繪
慶安三載九月十七日
荒尾志摩守有原山就朝臣



右面
（墨書）奉掛鷹繪
慶安三載九月十七日
荒尾志摩守有原山就朝臣

名称	所在地	員数	指定基準
木造聖観音菩薩坐像 <small>もくぞうしょうかんのぼさつざどう</small>	八頭町（成田山青龍寺）	1 軀	保護文化財 工芸品の部 1 各時代の遺品のうち製作優秀で我が県の文化史上貴重なもの 2 我が県の絵画・彫刻史上特に意義のある資料となるもの

< 指定理由 >

成田山青龍寺の収蔵庫に、持国天像・多聞天像を左右に配して安置される等身の菩薩坐像。聖観音と伝えられている。青龍寺に所蔵される文化3年（1806）の銘のある版本には、菩薩像と二天像の三尊構成の尊像が彫られ、少なくともこの頃には、青龍寺前身寺院の慈眼院に三尊一具として安置されていたことが推測される。本像は平成25年に八頭町指定文化財に指定されているほか、脇侍の持国天像は正安3年（1301）の造像銘があり、多聞天像とともに大正12年に重要文化財に指定されている。

本像は、後補された玉眼や漆箔に加え、損傷が進んでいるため、像容を損ねていることが惜しまれるが、目尻の切れ上がったまなざしや面長な顔立ち、腰高で抑揚があり量感豊かな体軀の表現、胸を張り上半身を起こした姿勢などに、鎌倉時代前期の造形的な特徴を看取することができる。

さらに本像の天冠台は、文様構成が簡略化されながら、1220年代以降にあらわれる連弧形が認められることが特徴的である。また頬が平板で全体に抑揚が少なく固さがみられることなどを考慮するならば、1230年代以降の作であることを指摘できる。

一方で量感がありつつも伸びやかな体軀や姿勢をもつ本像は、13世紀半ばにまではくだらないものと判断され、以上の諸点からみて本像は1230年代から1240年代の作であるとするのが妥当である。また作者系統としては、運慶嫡流ではないが、慶派仏師の作風が認められる。

本像の伝来については、前述のとおりつまびらかではないことが多く、いずれも裏付けがとれないことが惜しまれるが、鎌倉時代13世紀第二四半世紀には、各地域で慶派仏師が、鎌倉幕府の御家人やその子孫の依頼とみられる造像活動を行っていることが知られる。

本県には、13世紀前半の優品が少なく、本像の存在は、伝承そのままではないにせよ、鎌倉幕府に繋がるような有力者の関与を推測させるものである。空白期である当該地域の歴史を物語る作品であり、本像は鳥取県指定文化財に指定し保護するにふさわしい価値を有すると判断される。



木造聖観音菩薩坐像

名称	所在地	指定基準
陶芸 小林 孝男	鳥取市	(1) 無形文化財（工芸技術関係） 陶芸、染織、漆芸、金工その他の工芸技術のうち次の各号の一に該当するもの ③ 芸術上価値が高く、又は工芸史上重要な地位を占め、かつ、地方的特色が顕著なもの (2) 無形文化財の保持者（工芸技術関係） ① 無形文化財に指定される工芸技術を高度に体得している者

< 指定理由 >

陶芸とは、陶磁工芸・陶磁芸術の略語で、陶磁器を作る工芸技術である。すなわち、素地土（坯土、胎土）を成形して乾燥させた後に焼成することで形象を完結させるという、土を素材とする工程に則った造形活動のすべてをいう。

牛ノ戸焼は、天保8年（1837）に窯元の初代である小林梅五郎が石見焼の産地である石見国郷田村（島根県江津市）から職人を連れてこの地に移住して、現在の基礎を築いた。昭和6年（1931）に鳥取で民藝運動を推進していた吉田璋也（1898～1972）が四代・秀晴氏を訪ね、秀晴氏は吉田璋也を通じて柳宗悦や河井寛次郎、バーナード・リーチらの指導助言も受け入れて「用の美」を造形する作陶活動を展開した。以来牛ノ戸焼は、緑と黒の染め分け皿をはじめとする簡素ながらも斬新なデザイン性を湛えた製品が、民藝陶器として高い評価を得て全国の愛好家に知られるようになった。

牛ノ戸焼の六代・小林孝男氏は、福島県白河市の出身で、東京の大学を卒業後約6年間、設備設計事務所に勤務していたが、焼き物収集のために山陰の窯元を巡るうちに牛ノ戸焼窯元に立ち寄り、緑と黒の釉薬を掛け分けた代表的な器に心を惹かれ、結婚を機に五代・栄一氏のもとで修業をはじめた。鳥取の新作民藝を代表する牛ノ戸焼の素地土や釉薬の組成をはじめとする土味や釉調といった質感と、緑と黒の染め分けに代表される色調の表現方法について、伝統的な技術と作風を深く体得しているだけでなく、伝統を自分なりに汲み取って施釉や施文などに改良を加えて現代の生活に合うものを作陶している。

また、平成16年には本県伝統工芸士に認定され、令和2年から伝統工芸士会長として伝統的技術・文化の振興にも大きく寄与している。

さらに牛ノ戸窯の後継者（七代）である実子の遼司氏はもちろん、これまでに陶芸家を志して牛ノ戸窯で修行を行ったことのある若者5名に対しても、作陶技術の指導から陶業で独立自営する心構えや準備といった経営の実務的な知識と経験の教授を懇切に行ってきた。

以上のことから、本県指定の無形文化財「陶芸」の保持者と認めるに相応しいと評価する。



小林 孝男 氏



緑釉黒釉染分皿

名称	所在地	指定基準
ここのおげこふんぐん 古郡家古墳群	鳥取市	(史跡) 次に掲げるもののうち我が県の歴史の正しい理解のために欠くことができず、かつ、その遺跡の規模、遺構、出土遺物等において学術上価値のあるもの 1 貝塚、集落跡、古墳、その他この類の遺跡

<指定理由>

古郡家古墳群は、鳥取市古郡家字上ノ山などに所在する古墳群で、前方後円墳の1号墳を中心に、18基の円墳が遺跡地図に登録されている。このうち、14号墳までは通称「上ノ山^{かみのやま}」丘陵に立地してまとまりをもった古墳群と考えられる。

本古墳群の中核である1号墳は全長92.5mの前方後円墳で、古墳時代を通じて因幡地方最大級の古墳である。これまでに墳丘に対する発掘調査は行なわれていないが、後円部、前方部ともに2段築成であること、後円部墳頂やテラス面に円筒埴輪列を廻らすこと、墳丘斜面部に葺石を施していることは、より古い段階の鳥取県内の古墳にはみられない要素であり、1号墳は前期古墳の変遷過程を考える上で画期的な存在である。また1号墳出土品は一括して平成26年に県指定保護文化財に指定されており、そのうち青銅器や埴輪は形態的特徴等が近畿地方や丹後地方との繋がりを示していることから、古墳時代前期から中期への時代の転換点において近畿地方や丹後地方の有力者との関係を取り結びながら、因幡地方の有力者が台頭したことを物語る。

2号墳以下は、未調査のものが多いため正確な規模や時期は不明であるが、1号墳に近接し、周囲を取り巻くように展開するため、1号墳と深い関わりがあると考えられる。これまでに6号墳から銅鏡、9号墳から勾玉の出土が知られている。いずれも築造時期がよくわからないが、埋葬施設が粘土槨と伝えられ、墳丘上で採集される土器片などから判断すると、1号墳と類似した時期の可能性が高い。また2号、3号、5号、8号、9号、14号墳などは、県内の円墳としては中型からやや大型の部類に入り、墳丘の保存状態が比較的よいと考えられるため、古墳群の性格を考える際に重要な手がかりを提供すると考えられる。

総合的にみて「上ノ山」丘陵上に展開する古郡家1号墳から14号墳までの古墳群は、一体的に展開してきたものとして全体を保護対象とすることが妥当である。



古郡家古墳群全体図（航空レーザ測量図）

県内	県指定文化財	340 (3)	国指定文化財	128
	保護文化財	181 (2)	国宝・重要文化財	57
	絵画	32 (1)	絵画	3
	古文書	22	古文書	0
	彫刻	48 (1)	彫刻	18
	工芸品	17	工芸品	5
	書跡	0	書跡	1
	考古資料	30	考古資料	12
	歴史資料	1	歴史資料	0
	建造物	26	建造物	18
	工芸・考古資料	4	工芸・考古資料	0
	彫刻・建造物	1	彫刻・建造物	0
	史跡	21 (1)	特別史跡・史跡	35
	名勝	14	名勝	4
	名勝・史跡	0	名勝・史跡	1
	名勝・天然記念物	0	名勝・天然記念物	1
	天然記念物	58	特別天然記念物・天然記念物	20
	有形民俗文化財	8	重要有形民俗文化財	1
	無形民俗文化財	45	重要無形民俗文化財	4
	無形文化財	指定 11	重要無形文化財	指定 1
		(保持者 11 (1))		(保持者 1)
		(団体 3)		(団体 0)
	伝統的建造物群保存地区	1	重要伝統的建造物群保存地区	3
	選定保存技術保持者	1	重要文化的景観	1
県選択	3	国選択	9	
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	3	記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	9	

- ・ () 内の数字は今回新規指定数です。
- ・ 無形文化財は保持者の追加認定であり、工芸技術としての指定件数に変更はありません。

日本遺産の継続認定等について

令和7年8月21日
とっとり弥生の王国推進課

県内2地域の日本遺産について、このたび継続認定の審査結果発表があり、いずれも継続認定となりました。また、毎年度開催する「とっとり日本遺産フォーラム」を来月実施しますので、併せて報告します。

1 日本遺産継続認定について

(1) 継続認定の決定（令和7年7月31日文化庁発表）

日本遺産審査・評価委員会(注)による審査の結果、今年度が継続審査対象であった「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」及び「日本海の風が生んだ絶景と秘境－幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地『因幡・但馬』」の取り組みが評価され、「認定地域」として再認定されました。

(注) 日本遺産認定地域の取組状況を審議するため、文化庁に設置された委員会。

※「日本遺産」について

文化庁が、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定しているもの。認定された地域は現在、全国で104。

(2) 日本遺産審査・評価委員会による評価のポイント

①日本遺産「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」

- ・民間事業者と連携した体制の中で、地域全体で日本遺産に取り組んでいく姿勢や、現地整備（構成文財の保全、解説板の整備等）を重点的に進めるなど、具体的な計画ができていく点が評価される。
- ・「大山さんのおかげ」を誇りに思う地域住民が多いことを活かした地域活性化の方策や、大山の豊かな自然などを前面に出した観光事業化などについて、具体的に検討していくことが望まれる。

②日本遺産「日本海の風が生んだ絶景と秘境－幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」

- ・過去の課題を踏まえて目的意識を持った取組が計画されている点が評価できる。
- ・全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組ができていく。
- ・過去の活動成果を踏まえた計画となっている一方、経済効果に結び付けるためには、もう一段、誘客に向けた魅力的な取組を計画・具体化させることが望ましい。

< 県内の日本遺産認定状況 >

タイトル	所在自治体	初回認定日	次回審査年度
「六感清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～」	三朝町	H27. 4. 24	R12 年度 (3回目の継続認定審査)
「地蔵信仰が育んだ大山牛馬市」	大山町、米子市、伯耆町、江府町	H28. 4. 25	R13 年度 (3回目の継続認定審査)
「日本海の風が生んだ絶景と秘境－幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」	鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、兵庫県香美町、新温泉町	R元. 5. 20	R10 年度 (2回目の継続認定審査)
「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」	全国15県の市町 (県内は鳥取市)	H29. 4. 28	R8 年度 (2回目の継続認定審査)

2 「とっとり日本遺産フォーラム」について

県内で認定されている4つの日本遺産の魅力を広く県民へ知っていただくことを目的として開催。第4回目の開催となる今年度は、昨年度に重点支援地域として継続認定を受けた「六感清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～」を中心とした内容で開催します。

(1) 日 時 令和7年9月6日(土) 午後1時～4時10分 ※入場無料、事前申し込み不要

(2) 会 場 三朝町総合文化ホール(三朝町大瀬999-2)

(3) 主 催 とっとり日本遺産ネットワーク会議(事務局：鳥取県)

(4) 次第及び主な内容

- ・開会挨拶
- ・オープニングアクト 無声映画『三朝小唄』披露
- ・基調講演 「日本遺産三徳山と三朝温泉の魅力と可能性(仮)」
(講師：公益社団法人日本観光振興協会総合研究所顧問 ちょうの あきら 丁野 朗 氏)
- ・パネルディスカッション等

※会場において、ワークショップやみささ日本遺産マルシェも同日開催

青谷弥生人女性復顔像の名前選考状況について

令和7年8月21日
とっとり弥生の王国推進課

3月に公開した青谷弥生人女性復顔像の名前募集にあたり、全国公募の結果1,802点の応募があり、有識者を含む審査により入賞作品4点を選定しました。今後、「鳥取県ちいわか総選挙」において県内小学校等6年生の投票で名前を決定します。

1 名前募集

- ・目的 青谷かみじち史跡公園開園一周年を記念し公開した3体目復顔像の名付けを行い、青谷弥生人に愛着を持っていただくとともに、青谷上寺地遺跡への理解と関心を深めていただく。
- ・募集期間 令和7年4月17日(木)～6月30日(月)
- ・応募件数 1,802件(北海道から沖縄まで応募あり。最多は鳥取県、次に東京都)
(「青谷上寺朗」は626件、「青谷来渡」は1,239件)
- ・決定方法 5名の審査委員による審査会(令和7年7月9日開催)において入賞4点を選定。9月に県内小学校等6年生を選挙人とする「ちいわか総選挙」を行い、最も票数が多かったものを、女性復顔像の名前として決定する。

2 入賞作品

名 前	選 評
青谷 穂波 (あおや ほなみ)	稲作が始まった弥生時代を表現し、柔らかな響きを感じられる。豊かに実った稲穂に加えて海のイメージも合わせもっている。
青谷 瑞穂 (あおや みずほ)	稲作のイメージを豊かな実りを表す瑞穂に込めている。青谷を中心とした弥生社会の広がりを感じさせる。
青谷 潮音 (あおや しおね)	ラグーン(潟湖)のほとりに栄えた港湾集落をイメージでき、「潮」という字から波の音と海の香りを感じさせる。
青谷 琴海 (あおや ことみ)	青谷上寺地遺跡から出土した琴に注目し、交易の海と合わせて遺跡の特徴をよく表している。



女性復顔像

【復顔のもととなった頭蓋骨(第15頭蓋)】

出土地点 平成12年度(2000年度)発掘調査で検出された
弥生時代後期の溝状遺構(SD38-2)
時 期 弥生時代後期後葉(紀元2世紀第3四半期頃)
年 齢 壮年(30歳代～40歳代)
性 別 女性

3 女性復顔像及び既存の復顔像を活用したPR展開

- ・現在貸出し中の青谷上寺朗復顔像(東京及び名古屋での開催の「特別展『古代DNAー日本人のきた道』」に出展)が今秋には返却されるため、これまで製作の3体全ての復顔像が一堂に揃う予定であることから、青谷弥生ファミリー勢揃いイベントを計画中。
- ・女性復顔像の名前を発表するイベントの実施及び女性復顔像と青谷来渡(2体目復顔像)のイラスト化(マスコットデザイン作成)を10月に予定。